

都市圏総合交通政策—社会経済構造（高齢社会等）を反映した効率的交通体系の整備と運営の研究

主査 松澤 俊雄(大阪市立大学大学院教授)

石田 信博(同志社大学教授)

本研究グループではこれまで都市圏構造の分析と交通部門における輸送ならびにインフラ整備における構造的・制度的変化およびその分析を通じて、地域・都市交通における総合的交通政策の研究を進めることで成果を発表してきた。本年度は高齢社会など社会経済構造を反映した効率的交通体系と交通インフラの整備・運営状況をふまえたうえで、地域・都市交通政策における合理的・効率的な交通機関分担を主なテーマとして研究を進めてきた。これまで構築してきたわが国（取りわけ京阪神圏）の都市圏交通流動データの一層の発展・活用により、上記テーマでの研究を進行させるとともに、個別自動車交通と公共交通の間でのインフラ整備・運営・利用のあり方だけでなく、公共交通資本整備運営の組織的・制度的課題についての検討も行った。全体研究会では今日大きな課題となっている、省エネ的モビリティの向上に関して、「エコ通勤への交通手段転換に関わる意思決定構造分析」、「自動車利用と環境意識」の報告があり、また自転車利用のプライオリティ導入の交通政策に関連した「オランダにおける土地利用と交通政策の最近の動向について」、「オランダの自転車交通」の報告があった。また都市交通政策に関して「都市高速道路の需要関数の推計について」、「路面電車ルネッサンス」についての報告があった。一方部会・共同研究会では「都市・都心交通の性質と政策課題についての一考察」、「東南アジアの物流と海上輸送問題—タイとインドネシアを中心に—」があった他、関連分野との共同研究会では都市構造・まちづくりに関する5つの報告があった。また共催の文献研究会では、都市交通の調整組織の運営、公共交通の需要分析についての報告があった。また部会においても 年度中には成果がまとまらなかったが、公共交通・自動車交通と街路に関する活性化の研究を進めた。